

2021年2月9日

内閣総理大臣           菅   義偉   様  
防衛大臣               岸   信夫   様  
環境大臣               小泉 進次郎 様  
農林水産大臣         野上 浩太郎 様  
内閣府特命担当大臣  
                          (沖縄及び北方対策)  
                          河野 太郎   様  
沖縄防衛局長         田中 利則   様

公益財団法人 日本自然保護協会  
理事長 亀山 章

#### 普天間飛行場代替施設建設事業の工事一時停止と環境調査の実施に関する要望書

日本自然保護協会は、沖縄の生物多様性豊かな自然環境の保全に取り組んでいる立場から、以下の理由にもとづいて普天間飛行場代替施設建設事業の工事の一時停止と環境調査の実施を要望します。

この事業についての設計変更承認申請書には、最近になり判明した軟弱地盤の実態や地盤改良工事の詳細が書かれていない、絶滅危惧種であるジュゴンの保護対策が不十分である、埋め立て資材に伴う外来種対策が考慮されていないなど、多くの不備があります。

2019年10月に、米国のNGO ミッションブルーにより、辺野古・大浦湾一帯がホープスポット（Hope Spot：希望の海）に認定されました。対象の範囲は、辺野古・大浦湾を中心にした天仁屋から松田までの44.5平方キロメートルの海域です。この認定により、辺野古・大浦湾の生物多様性やそれを育む地形の豊かさが改めて国際的に認められました。

私たちはホープスポットを支持し、日本政府が工事を一時中止し環境調査を再度行うことに対し寄せられた24,235名の市民の署名を8月21日に政府にお届けしました。この署名は2021年1月11日まで続けましたところ、合計25,925名（インターネット21,296名、紙媒体2,629名）の声となりましたので、改めて追加分についてお送りします。

日本の財産である生物多様性豊かな辺野古・大浦湾の自然を守ることは日本政府にとっても重要なことであると考えます。工事の一時停止と環境調査の実施をするよう要望いたします。